

褐色円星病の防除適期

[研究のねらい]

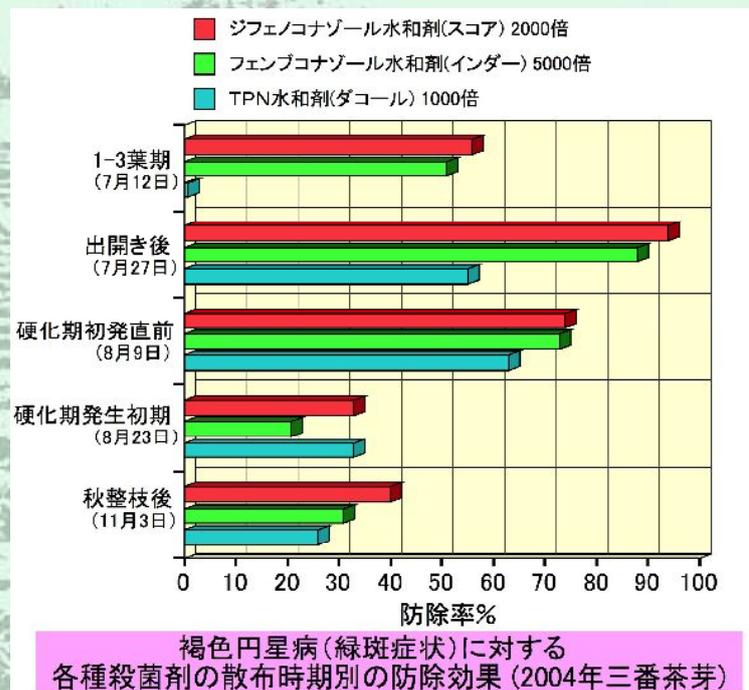
- ・褐色円星病(緑斑症状)は感染期間が長いため、防除適期の把握が難しい。
- ・三番茶不摘採茶園では、三番茶新芽の生育初期に炭疽病などとの同時防除をねらい褐色円星病にも有効な薬剤を散布しているが、発生を十分抑制できない場合がみられる。
- ・有効薬剤の散布時期について検討し、褐色円星病の防除適期を明らかにする。



褐色円星病の病徴と被害

[研究の成果]

- ・褐色円星病(緑斑症状)の防除適期は新芽の生育が進んだ出開き後～硬化初期である。
- ・出開き後～硬化初期の防除効果は、年次による差がなく、安定した高い効果を示す。
- ・炭疽病などの防除時期である新芽生育初期(萌芽～2-3葉期頃)の防除効果は不安定なので、高い効果を得るためには、出開き後～硬化初期に薬剤を追加散布する必要がある。
- ・新芽が完全に硬化し、緑斑症状が発生し始めると、防除効果が極端に低下するので注意する。
- ・三番茶生育期(三番茶不摘採茶園)の散布時期の目安としては、炭疽病などに対する2回目防除(2-3葉期)の10日～14日後で、新芽が完全に開き葉色が濃くなり始めた頃である。



防除適期頃の新芽の状態

問い合わせ先 生産環境(病害虫) 0548-27-2885
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp